

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

大学院自然科学研究科

部局長名：

田中秀樹

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>(1) サバティカル制度の実効的導入方法を検討し、外国人教員や女性教員の採用を、研究科のアクティビティの維持向上を図りながら、可能な限り増加するように努める。</p> <p>(2) 学力の保証のため、各専攻でのコースワークを設定や学位取得のための条件をより明確にするなどの方法について検討する。</p> <p>(3) 前期課程においては、複数の専攻が合同で中間発表を行なうなど、達成度を相互に確認し、またレベルの向上と一定の普遍性を有する教育を実施する方策を検討する。</p> <p>(4) 異分野基礎科学研究所と連携して開設するコースを内容的に充実させる。</p> <p>(5) 学位審査の厳密化を実施また検証するとともに、学位授与の多様性について検討する。</p> <p>(6) 若手研究者キャリア支援センター等と連携し、学生に対するキャリア支援プログラムを活用して進路選択を支援する。</p> <p>(7) 奨学金助成情報の収集と発信に努め、TA・RAの雇用機会を増進する。</p> <p>(8) 研究科内で採択実施されている頭脳循環プログラムなどを利用して、海外の著名な大学との実質的な交流を行い、またその拡大を図る。</p> <p>(9) 医用工学専攻を中心にして、海外の大学との連携を図る。</p> <p>(10) 留学生の受入派遣体制を充実する。そのために、中国赴日教育などについて、積極的に協力する。</p> <p>(11) 先進基礎科学特別コースなどによる専門分野を超えた異分野融合教育を推進する。</p> <p>(12) 英語による講義の開講数の増加を図る。</p> <p>(13) 60分・クォーター制に対応した大学院授業充実の検討をする。</p> <p>(14) 優秀学生への科長表彰を実施する。</p>	<p>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>(1) サバティカル制度の実効的導入方法を検討を幾つかの専攻で開始し、外国人やWTT制度を活用し女性教員の採用に努めている。WTT後の昇任などについても配慮をしている。</p> <p>(2) 各専攻でのコースワークを設定や学位取得のための条件をより明確にするなどの方法について検討を行った。</p> <p>(3) 前期課程においては、化学系においては複数の専攻が合同で中間発表を行なうなど、達成度を相互に確認した。また全学の方針にあわせて、レベルの向上と一定の普遍性を有する教育を実施する方策を検討を行った。</p> <p>(4) 異分野基礎科学研究所と連携して学際基礎科学特別コースを開設した。</p> <p>(5) 学位審査をより厳正に行うため、講座会議審査結果報告書において、指導教員が学位論文の主査を担当する場合は、それが適切であること理由を明記するようになった。</p> <p>(6) 若手研究者キャリア支援センター等と連携し、幾つかのコースなどにおいて学生に対するキャリア支援プログラムを活用して進路選択を支援している。</p> <p>(7) 特に留学生を対象とした奨学金については、情報の発信による奨学生枠の確保に努めている。</p> <p>(8) 研究科内で採択実施されている頭脳循環プログラムなどを利用して、海外の著名な大学との実質的な交流が拡大された。</p> <p>(9) 医用工学専攻を中心にして、海外の大学との連携が拡大された。</p> <p>(10) 中国赴日国留学生予備教育事業に中心的役割を果たし、また基礎学部と一体となった受け入れ派遣体制の構築を行っている。</p> <p>(11) 先進基礎科学特別コースや学際基礎科学特別コースなどによる専門を超えた融合教育の実施に努めている。さらに、先進基礎科学特別コースに関しては、より高度な融合教育を提供できる新たな研究科横断特別コースFlex BMDの設置準備を行った。</p> <p>(12) シラバスの英語記載について研究科全体として調査を行った。また、外国人学生の要請により英語による講義を行った。</p> <p>(13) 60分・クォーター制に対応して大学院のカリキュラムも変更し、内容の充実を図った。</p> <p>(14) 優秀学生への科長表彰を、前期課程12名、後期課程7名の授与を決定している。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>(1) 博士前期課程の全体としての充足率を維持するとともに、各専攻における定員充足を目指す。</p> <p>(2) 博士後期課程の定員充足を目指す。</p>	<p>①-2 大学全体への貢献</p> <p>(1) 学部と併せて、留学生数や外国派遣学生に関して、貢献している。</p> <p>(2) 中国赴日国留学生予備教育事業に中心的役割を果たしている。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況	
<p>(1) 前期課程については、一部専攻では充足できていないが、全体としての充足はなされている。</p> <p>(2) 従来充足率の低い専攻で改善がみられたが、現在の充足率は50%程度であり、10月入学での確保を目指す。</p>	
②研究領域	
②-1 目標	
<p>(1) 戦略的重点プロジェクト研究及び新分野の創成を目指す基礎および応用研究を推進する。</p> <p>(2) 現在世界的に高評価されている研究の継続的な発展を図る。</p> <p>(3) 研究成果(論文誌掲載やシンポジウム・研究会の開催など)の公表を促進する。</p> <p>(4) 知的財産本部およびURAと連携した知財の獲得を推進する。</p> <p>(5) 外部資金獲得のための専攻や講座の枠を超えた水準の高い研究プロジェクトの編成を促進する。</p> <p>(6) 複数の先進研究者による研究科内研究拠点体制を整備して支援するとともに、卓越する研究を実施する個人あるいはグループを支援する。</p> <p>(7) 異分野基礎科学研究所と連携して、国際共同研究の推進を図る。</p> <p>(8) 外国人教員や女性教員の採用を、研究科のアクティビティの維持向上を図りながら、可能な限り増加するように努める。</p> <p>(9) エラスムス・ドウスや頭脳循環プログラムを活用して、国際交流に努める。</p>	<p>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>(1) 戦略的重点プロジェクト研究及び新分野の創成を目指す基礎および応用研究の推進を、異分野融合先端研究コアと協力して行った。</p> <p>(2) 現在世界的に高評価されている研究を、継続的な発展を図った。</p> <p>(3) 研究成果(論文誌掲載やシンポジウム・研究会の開催など)の公表を促進し、そのための実施支援や資金獲得の推薦して必要財源の獲得に努めた。</p> <p>(4) 企業や産総研との包括協定による研究推進に協力した。</p> <p>(5) 外部資金獲得のための専攻や講座の枠を超えた水準の高い研究プロジェクトの編成を促進し、頭脳循環プログラムでは複数の専攻間で実施されている。</p> <p>(6) 設備サポートセンターを通じての、卓越する研究の機器整備に対して財政的支援を行った。また、触媒や計算科学のグループ化などの編成に協力した。</p> <p>(7) 異分野基礎科学研究所と連携して、国際共同研究の推進を図り、URAと協力して研究会などを実施した。</p> <p>(8) 業績評価に基づいて女性教員のWTTからの受け入れと昇任を行った。また、外国人教員と女性教員の採用(予定も含む)が進んだ。</p> <p>(9) エラスムス・ドウスや頭脳循環プログラムを活用して、国際交流に努めた。</p> <p>(10) 採択率を上げるために、全学の取り組みに従って、添削を大学院主導により実施した。具体的には、各講座や研究グループに積極的な取り組みを依頼するとともに、添削についての支援を行った。また、過去の幾つかの採択課題の申請書を研究科内で公開している。申請率は、ほぼ100%を達成した。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>(1) 科研究費申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)以上を目指す。</p>	<p>②-2 大学全体への貢献</p> <p>(1) 物理、化学、基礎生物学などの分野における論文に関する指標の上昇に大きく貢献している。</p>
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況	
<p>(1) 申請率ほぼ100%を達成した。</p>	

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 (1)基礎学部と協力して高大連携事業を促進する。 (2)研究科教員による地域と連携した各種講演会や研究会の開催を支援する。 (3)研究科教員による国際会議・セミナー開催を支援する。 (4)外国人研究者の招聘・訪問を促進する。 (5)部局間および大学間交流協定の締結を拡充する。 (6)研究科の英文ホームページの整備や英文の研究科年報の作成などを行う。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 (1)高校生・大学院生による研究紹介と交流の会を実施し、またSSHやGSCの運営や高校生の研究指導を行った。 (2)地域の小中学生や地域住民への啓蒙活動、企業を含めた講演会を多数回行った。 (3)Brain Storming sessionをはじめ多くの国際会議を開催また支援した。 (4)多数の招聘訪問が実施された。 (5)過去1年間に多数の交流協定が締結された。 (6)研究科の英文ホームページの整備や英文の研究科年報の作成の準備を行った。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 (1)講演会や研究会を10回程度以上開催する。	③-2 大学全体への貢献 (1)基礎学部と協力して、特に理系の高大連携事業の促進に中心的役割を果たした。
	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 (1)基礎学部や異分野基礎科学研究所と協力して10回以上の講演会や研究会を開催した。
達成状況 (1)学系毎の人事関係の手続きが開始され、より実質的な選考がなされ始めた。 (2)学位審査の一部を専攻に委ねることにより、より厳格な審査が可能になった。 問題点 (1)構成員のコンプライアンス意識の向上に努める必要がある。	